

参天製薬株式会社

クラウド、ネットワーク、サポートを1社に統合 世界共通のICT基盤と運用管理体制を実現



導入サービス名：Enterprise Cloud
Nexcenter



参天製薬株式会社
執行役員 CIO
情報システム本部長
山本 範明氏

「本プロジェクトでは、NTTコミュニケーションズの国内スタッフが先頭に立ってグローバルな連携を統括。スムーズな進行を支援してくれました」



企業情報

社名 参天製薬株式会社

事業概要 眼科に特化した「スペシャリティ・カンパニー」として、医薬品および医療機器の研究開発・製造・販売を手がける。グローバルにおける開発パイプラインの強化、臨床開発体制の構築および事業開発に注力するなど、近年は海外展開を積極的に進めている。

URL www.santen.co.jp

- **課題**
 - ・地域ごとにICT環境がばらばらで、加速するグローバル展開に対応できない
 - ・オンプレミスで個別にサーバーを用意することが多く、ムダが生じていた
- **対策**
 - ・グローバルのシステムを単一のハイブリッドクラウド環境に集約
 - ・運用管理やヘルプデスクサービスも1社に集約することでガバナンスを強化
- **効果**
 - ・グローバルで標準化されたICT基盤および運用管理体制を実現
 - ・サーバー、ネットワークをはじめとするICTリソースを迅速に展開可能に

課題 競争力強化のためグローバル展開を推進 サイロ化したシステムが戦略の足かせに

「目」に関する高度な専門性を強みに、価値ある医薬品の提供に努める参天製薬。国内の医療用眼科薬市場でリーディングポジションに位置する同社は、さらなる成長に向けてグローバル展開を強化している。

具体的には、2020年までに「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」となるべく、研究開発および海外での販路拡大を推進。その一環として、2014年には緑内障・高眼圧治療薬などを開発・販売する米メルク社から製品を取得し、日本、欧州、アジアでの販売を開始した。「海外の売上比率は、2020年までに50%程度まで高める計画です」と同社の山本 範明氏は説明する。

一方、こうした戦略の推進に当たっては、ビジネスを支えるICTとその運用体制に関する課題が浮上していたという。

「従来は、グローバル各拠点が個別にシステムを構築・運用しており、データセンターやネットワークの委託先業者もばらばら。これでは、ビジネスの変化に対応した迅速なシステム提供も運用の標準化もできず、さまざまな業務上の不都合が起っていました」（山本氏）。例えば、日本の社員が海外に出張した際、日本で使うWebベースの業務システムを利用しようとしても接続できない。原因は、日本と異なるファイアウォールのポリシーによるものだった。結局、解決までに数日を要し、業務遅延や人的リソースのロスが生じてしまったという。

「また、これまではオンプレミスでシステムを構築するケースが多く、しかもシステムごとに別々にサーバーを購入していたため、コストや運用の面でもムダが生じていました。こうした状況は、スムーズなグローバル展開の妨げになります。そこで当社は、グローバルの全システムおよびネットワークの再構築を決断。最適な方法を模索し始めたのです」と山本氏は話す。



Global ICT Partner
Innovative. Reliable. Seamless.

対策

データセンターとネットワークを1社に委託 世界共通のハイブリッドクラウドを実現

同社は、国内外の主要なベンダー・通信キャリア6社に提案を依頼。比較検討の末、最終的にパートナーに選定したのが、NTTコミュニケーションズ(以下、NTT Com)だった。

最大の決め手は、グローバルにおけるワンストップの対応力だ。NTT Comは、クラウドサービス「Enterprise Cloud」およびネットワークサービス「Arcstar Universal One」を提供。これらを活用することで、クラウド上のシステムに、全拠点アクセスして利用するグローバル統一の仕組みが構築できる。これについて山本氏は、採用理由を次のように話す。

「[サイロ化]したシステム群を集約し、標準化が図れると考えました。また、例えば新プロジェクトの立ち上げ時など、新たなシステムを用意する場合、従来はサーバーなどのインフラとネットワークを別々に調達する必要がありました。そのため、立ち上げに時間がかかっていましたが、Enterprise CloudとArcstar Universal Oneの組み合わせなら、NTT Comが一括窓口となってくれます。さらにNTT Comはエリアによる得手不得手もなく、グローバルに均質なサービスが提供できる。こうした点を総合的に評価しました」

加えて、業界最高レベルの質を誇る次世代型データセンター「Nexcenter」を活用すれば、高品質なハイブリッドクラウド環境も実現可能。Nexcenterにコロケーションしたシステムは、Enterprise Cloud上のシステムとシームレスに連携できるため、すぐにはクラウドに移管できないシステムも、現場業務の利便性を損なわず運用できると判断したという。

また、製薬業界には「GxP (Good×Practice)」という、公的機関が定める製品の品質管理基準が存在する。特に薬品の研究開発や製造などを担う専門システムについては、このGxPを満たす環境で運用する必要があるが、NTT Comの各サービスは、十分に満たしていると評価したという。「実際にデータセンターを訪問し、不審者の侵入対策や運用管理体制などを確認。安心して任せられると感じました。クラウド、データセンター、ネットワークの全局面において、当社が求める高いレベルのソリューションを提供するNTT Comは、まさに最適なパートナーだと感じたのです」と山本氏は言う。

効果

システムを迅速に提供できる体制を実現 多言語対応のヘルプデスクサービスも活用

こうして同社はシステム移管プロジェクトを開始。NTT Comの支援の下、基幹系、情報系、製薬の研究開発用といったシステムの用

途ごとに、クラウド/オンプレミスの最適な振り分けを行っていった。

2015年1月には日本のデータセンター統合を実施し、約300台のサーバー環境をEnterprise CloudおよびNexcenterに移管。さらに2015年2月にはグローバルのネットワークを刷新し、Arcstar Universal Oneの稼働を開始している。

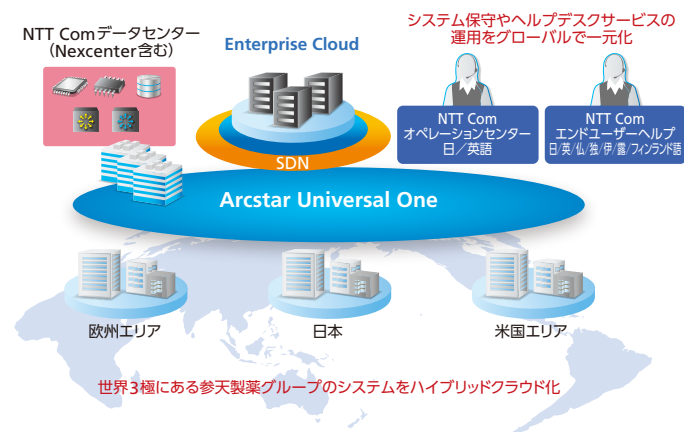
プロジェクトは継続中だが、すでに効果は出ている。その1つが、インフラの俊敏性向上だ。「例えば、現場の求めに応じてシステムを用意する場合、約1週間あれば必要なサーバー環境を提供できるようになりました」(山本氏)。Enterprise Cloud、Arcstar Universal Oneの各種設定はグローバル共通のビジネスポータルを通じて柔軟に変更可能。システムの全容を把握しながら管理が行えるため、ガバナンス強化も図れているという。

また同社は、NTT Comが提供する多言語対応のヘルプデスクサービスも大いに活用している。「実は、NTT Comに決めたもう1つの理由が、このヘルプデスクサービスでした。『日・英・仏・独・伊・露・フィンランド語』という世界各拠点の母国語をカバーでき、IT活用に関する社員からの一次問い合わせ対応を一任できる。対応品質も高く、初回コールでの解決率は80%に達しています」と山本氏は満足感を示す。

今後は2015年中に日本と米国でのヘルプデスクサービス統合、さらに米国と欧州のデータセンター統合が控える。完了の暁には、グローバルで統合されたICT基盤上で、高度に標準化されたシステム運用が実現できる見込みだ。

「情報システム部門は、常に現場の半歩先を読んで手を打つことが肝心です。NTT Comには、より高度なEnterprise Cloudの活用など、積極的な提案をこれからも期待しています」と山本氏は語った。

図 参天製薬が構築したハイブリッドクラウド環境のイメージ



ゆくゆくはグローバル全拠点の業務システムをNTT Comのクラウドおよびデータセンターに集約し、高度に標準化された業務環境を実現する予定だ

お問い合わせ先

NTTコミュニケーションズ株式会社

法人のお客さまお問い合わせ窓口 [法人コンタクトセンター]



0120-106107

受付時間 9:30~17:00

※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。土・日・祝日・年末年始は休業とさせていただきます。

ホームページ www.ntt.com/business

●記載内容は2015年3月現在のものです。

●表記のサービス内容は予告なく変更することがありますので、お申し込み時にご確認ください。

●フリーダイヤルのサービス名称とロゴマーク  はNTTコミュニケーションズの登録商標です。

●記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。